

萩原朔太郎賞が決定「青い家」に 福間健二さんの



ことしの萩原朔太郎賞は、福間健二さんの『青い家』に決定。福間さんの受賞コメントやプロフィールなどを紹介します。賞の贈呈式と記念講演などは、10月29日(土)に行います。

問い合わせは 文化国際課 ☎898-6522

青い家

書いてしまえばいいのに待ってしまふ。
なにかもつといい案が浮かぶのを
ぎりぎりまで
きのうも、待った。
書くことがなくても書く。
それしか手はないというのに
夜、靴をなくしたまま歩いていた。
「だめ、だめ、そこまではだめ」と言いながら
彼女は許している。
かわいい人だ。
血のにじむ足をひきずり
霧のなかをよこぎって
めざめる朝の体のなかに帰ってきた。
ここからまた
休まずに歩いてゆく。
ここからまた
叱れどおしの生活とはげしい雨。
来ないものを待つ
その心を、ベンチにおきざりにして
逃げるように歩いてゆき
だれにも待たれていない。
この落胆。
服のサイズも合わなくなって泣く場面。
ここに釘を使う。
思い出に酔わない釘を使う。
こわれたように
水を吐きつづける
青い家
そこで名前を呼ばれるために。

最終候補6作品の中から 輝く

9月1日の選考委員会で、
福間健二さんの詩集『青い家』
が栄えある萩原朔太郎賞に決
まりました。『青い家』は、
熱情と感傷を独自のスピード
で表す、地上の歌98編。生き
ることと書くことをぶつけ合
うように歩き続ける著者の、
詩的存在証明ともいうべき新
詩集大冊です。最終選考に残っ
た候補作品や選考委員などは
次のとおりです。

候補作品・作者・出版社

— 敬称略 (作品50音順) —
『青い家』・福間健二 (思潮
社)、『明石、時』・陶原葵 (思
潮社)、『Agend'Ars』・管啓次郎
(左右社)、『詩ノ黙礼』・和合亮
一 (新潮社)、『ノミトビエシ
マルの独言』・季村敏夫 (書肆
山田)、『みをはやみ』・山崎佳
代子 (書肆山田)

選考委員

— 敬称略 (50音順) —
岡井隆 (歌人、医師)、高
橋源一郎 (作家、評論家)、平
田俊子 (詩人、作家)、松浦寿
輝 (詩人、小説家)、吉増剛造 (詩
人)

受賞コメント

うれしいです。自分の作品
は、賞とかには縁がないのか
なと思っていました。何度も
候補になりながら芥川賞をと
れなかった友人で故・佐藤泰
志さんの小説が、最近多くの
読者をひきつけています。何
か彼が後押ししてくれたのか
な。これからも、詩をいろい
ろな場所に引き出していくよ
うな仕事を続けていきたいで
す。

福間健二さんのプロフィール

昭和24年、新潟県生まれ。東京都立大 (現・首都大学東京)
卒。詩人、映画監督、文化研究者、首都大学東京教授。日常
の中に繊細に分け入る知的語法で、生の激しさと人々との対話
への希求を表現している。主な作品は、詩集『福間健二詩集』『侵
入し、通過してゆく』、詩論集『詩は生きている』、映画監督作
品『わたしたちの夏』など。



福間健二さん 撮影/酒井 豪

萩原朔太郎記念 前橋文学館 水と緑と詩のまち



贈呈式・記念講演

賞の贈呈式と福間健二さんの記念講演などを行います。

駐車券は配布しません。

日時=10月29日(土)午後1時30分

会場=前橋文学館

対象=一般、先着80人

申し込み=10月11日(火)から文化国際課へ

問い合わせは 文化国際課 ☎898-6522

萩原朔太郎賞受賞者プレ展

期日=11月13日(日)まで

内容=詩集『青い家』と作者の福間健二さんを紹介

若い芽のポエム入賞作品展

期日=10月19日(水)~ 11月13日(日)

内容=若い芽のポエム入賞作品を紹介

問い合わせは 前橋文学館 ☎235-8011